日本マススクリーニング学会　投稿規程
（投稿論文について）

1. 日本マススクリーニング学会誌への投稿は、筆頭著者が日本マススクリーニング学会会員に限る。但し、総説、技術解説など編集委員会から特別依頼での原稿については、この限りではない。
2. 論文の投稿は、国内外の他雑誌に掲載されていない論文、あるいは現在投稿中でない論文に限る。

   原稿の種別：

   1）原　　著：独創に富み、目的、方法、結論等の明確な研究論文。
   2）症例報告：マススクリーニングに関連した臨床経験を簡潔にまとめた論文。
   3）短　　報：主に独創的な方法論（開発、改良等）などを内容とする速報性の高い論文。
   4）総説・技術解説等：総説は、編集委員会からの依頼によるもの（依頼総説）と投稿によるもの（原著総説）とに分ける。原著総説とは、過去に出版された論文をまとめることにより新しい概念を提案するもの、争点を整理し、今後の研究の方向性に示唆を与えるものとする。会員および特別講演者、海外からの講演者等で発表されたもの、または最近のトピック等について解説した論文とする。採否は編集委員会の査読を経て決定される。
3. 投稿論文の採否は、依頼した査読審査委員と編集委員会を経て決定される。

   【採択の決定された日を受理日】とする。受理日以降は内容の変更（著者名の変更なども含む）は一切認めない。変更の必要な場合は、新規投稿扱いとなる。
4. ヒトを対象とした研究は「ヘルシンキ宣言」およびこれに準じた指針の規定を厳守すること。

   特にヒトを対象とする研究においては、患者等の匿名性を十分守ったうえ論文中にインフォームド・コンセントを得たこと、所属施設・機関等の倫理委員会・治験審査委員会等の承認を得た旨を記載すること。症例報告においても、必要に応じて同様に対応すること。
5. 利益相反（COI）に関しては、日本マススクリーニング学会の定める規定に則り、投稿時に有無について開示する。
6. 論文掲載は、8.「別表」に定める制限内の枚数は無料とし、それを超えるものは実費を著者が負担するものとする。但し、短報は制限内の枚数を厳守すること。但し、特に急いで掲載を希望する場合は、編集委員会の承認を得ることにより特別に掲載ができる。この場合は、特別掲載料を負担する。また、アート紙、カラー写真を希望する場合は、その費用を著者が負担する。

   なお、図、表は、各々1つにつき400字として換算する
7. 別刷は30部を無料にて進呈する。ただし、それ以上の別刷を希望する場合は、出版社規定の部数にて料金を負担する
8. 別表 論文種別の文字数、図・表・写真・文献は以下の通りとする

論文種別	和文字数（本文＋図＋表）	要旨（和文）
原　　著	10,000字以内	600字以内
症例報告	7,000字以内	600字以内
短　　報	5,000字以内	300字以内
総説・技術解説	10,000字以内	600字以内

Presented by Medical*Online

9. 執筆上の基本的注意事項
   1) 原稿はマイクロソフト社のWord、Excel、PowerPointを使用して作成する。
   2) 1ページ目は表紙としては和文で、表題、各々の著者の所属、著者全員の氏名、キーワード、連絡責任者の住所、所属、氏名、電話、E-mailアドレスを記載すること。
      ① 表題には略語を用いないこととし、適切な日本語の単語がない場合を除いて日本語として定着している単語を使用すること。
      (例)「DBS」⇒「乾燥血液濾紙」、「BH4」⇒「ビオプテリン」とすること。また、外国語を用いる場合は 適切な日本語がない場合に限る。
   3) 2ページ目以降
      記載順は ①要旨、②本文、③利益相反、④謝辞、⑤文献、⑥表、⑦図の説明、⑧図、⑨英文表題、英著者名と所属。
      ① 要旨は別様とし、要旨のあとにキーワードを5個以内にまとめて記載する。
      ② 本文は、緒言、(症例提示)、方法、結果、考察の順に作成する。和文のフォントはMS明朝とし、タイトルと見出しはMSゴシックとする。本文中の英語単語のフォントはTimes New Romanとし、数字は半角とする。
      ③ 利益相反(COI)の表明方法:利益相反がない場合は、「日本マススクリーニング学会の定める利益相反に関する開示事項はありません。」と本文の末尾に記入する。
      詳細は、日本マススクリーニング学会誌(2017. Vol.27. No.3. P126)を参照。
      ④ 謝辞がある場合は利益相反の後に記載する。
      ⑤ 文献の記載方法は別掲12に従うこと。
      ⑥ 表は本文原稿とは別ファイルとして作成する。本文と同一フォントを用いてExcelあるいはWordで作成する。
      ⑦ 図はトレースしたものか、Power Pointにより作成する。
10. 原稿について
   1) 原稿は、A4判縦用紙に横書き。12ptの文字を使用し、1行35字、40行(1頁1,400字)として、上下左右に25mm以上の余白をあける。
      本文は、ひらがな、カタカナは全角で入力する。「・」「:」「;」「()」「~」「%」「℃」「→」「=」「±」「×」「÷」なども全角で入力する。
      読点は「,」(コンマ)ではなく「、」(テン)を、句点は「.」(ピリオド)ではなく「。」(マル)を用いること。
   2) 現代かな使いは、常用漢字を用いること。
   3) 表題には略語を用いないこと。ただし略語を使用したほうがわかりやすい場合は認められる。
   4) 本文中に略語を用いる場合は、一般に使われているものに限る。その場合は初出の際に省略しない語を記載し括弧内に略語を示す。
   5) 原則として外国人名は原語で、薬品名は一般名で記載する。
   6) 英数字は半角文字を使う。
   7) 論文記載内容、写真などについては、倫理上の配慮が求められる。
   8) 投稿原稿は電子メールの添付ファイルで投稿すること。投稿して4日間以内に受取りの連絡がない場合は、編集委員会事務局まで連絡すること。
      本誌に掲載された論文等の著作権は、日本マススクリーニング学会に帰属する
11. 数字、数量の単位
   1) 数字はアラビア数字を用い、整数は三桁ごとに「,」(コンマ)を記入し有効数字を考慮して記載すること。

Presented by Medical*Online

2）数量の単位は、km、m、cm、mm、μm、L、dL、mL、μL、kg、g、mg、μg、mEq/L、mg/dL、M、μM、nMなどを用いること。数字と単位との間は半角スペースを開けること

12．引用文献の記載方法

1）引用文献は本文に引用された文献のみを記載する。

2）引用番号は本文の引用順に、右肩に1）2）3）とし、アラビア数字で記入する。

3）引用文献の著者氏名、編者氏名は、3名までは全員を記載する。4名以上の場合は最初の3名を記載し、日本語文献では「，他：」また外国語文献の場合は「, et al:」を付する。

4）最終頁は略さず全数字を記載する（例：135-46 ⇒ 135-146）

5）文献の書き方は、下記の形式とする。

① 【雑誌】著者名：表題．雑誌名．巻数：頁，出版年．

和文例：

1）山田健治，坊亮輔，小林弘典，他：CPT2欠損症の同胞例，出生直後のアシルカルニチン分析で診断できなかった一例．特殊ミルク情報．52: 52-55, 2016.

2）山岸卓也，藤倉かおり，田上泰子，他：速液体クロマトグラフィータンデム質量分析計を用いた先天性副腎過形成症スクリーニングに判定基準の検討．日本マススクリーニング学会誌．26: 43-50, 2016.

英文例：

1）Tajima G, Sakura N, Yofune H, et al: Enzymatic diagnosis of medium-chain acyl-CoA dehydrogenase deficiency by detecting 2-octenoyl-CoA production using high-performance liquid chromatography: a practical confirmatory test for tandem mass spectrometry newborn screening in Japan. J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci, 823: 122-130, 2005.

2）Tamamori A, Fujimoto A, Okano Y, et al: Effects of citrin deficiency in the perinatal period: feasibility of newborn mass screening for citrin deficiency. Pediatr Res 56: 608-614, 2004.

② 【書籍】著者名：表題．編者名．書名，版：頁，出版年．出版社名，発行都市名．

1）但馬剛：高ガラクトース血症のスクリーニング概要．山口清次編．よくわかる新生児マススクリーニングガイドブック，初版：132-133，2019．診断と治療社，東京．

2）Millington D.S: Tandem mass spectrometry in clinical diagnosis. Blau N, Duran M, Blaskovics M E, Gibson M, eds. Physician's Guide to the Laboratory diagnosis of metabolic diseases. 2nd edn.: 57-75, 2003. Springer, Berlin.

③ 【ウェブサイト記事】著者名．ウェブページの題名．ウェブサイトの名称（URL）．入手先，（入手日付）

サイト名［Internet］．発表機関所在地：機関名；発表年月日［cited アクセス年月日］

1）日本マススクリーニング学会．郵便法改正の問題点と新生児マススクリーニングへの影響および日本マススクリーニング学会の対応について．https://www.jsms.gr.jp/download/Yubin_Hokaisei_2021-Q&A.pdf.（アクセス2022年2月12日）．

2）Fisher, T. Ion AmpliSeq Library Kit 2.0 User Guide. Available online: https://tools.thermofisher.com/ content/ sfs/manuals/MAN0006735_AmpliSeq_DNA_RNA_LibPrep_UG.pdf (accessed on 16 September 2019).

3）NewSTEPs. Newborn Screening status for all disorders. https://www.newsteps.org/resources/newborn screening-status-all-disorders (Accessed December 27, 2019).

④ 【AMED等の年度研究報告書／研究機関年報】著者名．表題．編者名また編集機関名：報告書名．年，頁．

Presented by Medical*Online

1) 渡辺倫子，重松陽介，鈴木恵美子，他：タンデムマス・スクリーニングにおける外部精度管理（第1報）．山口清次：タンデムマス導入による新生児マススクリーニング体制の整備と質的向上に関する研究．厚生労働科学研究補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）研究報告書．2012，P105-109．

13．校正

1) 著者校正は原則1回のみとする。初校校正以後の誤りは著者の責任となるため注意深く校正すること。
2) 校正では、字句の誤りのみを訂正すること。内容にかかわる変更、著者の変更、キーワードの変更等は、原則として認めない。
3) 正誤表は、刷上りの論文が著者の校正と異なる場合のみこれを作成する。

付記　査読の迅速化のため以下の点を順守すること

1) 査読後の再投稿時は、査読者の指摘一つずつに対し、回答および修正したところを一対一の対応で記載した文書（査読返信レター）を添付すること。査読者の指摘以外の部分に変更を加える場合にもその理由、変更箇所をこの文書に明示すること。
2) 再投稿用の原稿を作成する際は、変更箇所が一目で分かるように、見え消し線、下線、赤字などを用いて、修正部分を明示したものを再投稿すること。(Microsoft Wordの変更履歴機能は使用不可)

2017年3月　改訂
2021年9月　付記添付
2022年8月　改訂
2024年8月　改訂
2025年12月 改訂

原稿投稿・お問い合わせ先
〒104-0033　東京都中央区新川一丁目28番23号
東京ダイヤビルディング5号館9階
株式会社　エム・シー・アイ 内
日本マススクリーニング学会
編集委員会事務局　宛
TEL：03-6367-6224
FAX：03-6367-6235
E-mail：info@jsms.gr.jp

Presented by Medical*Online